

第4回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議（スポーツリエゾン京都）  
会議摘録

日時：平成26年3月24日（火）午前10時00分～午前12時00分

会場：京都市役所E会議室

出席：＜委員＞ 山下委員長，飯田委員，石野委員，檀野委員，松永委員，長谷川委員，森井委員，福林委員，

＜京都市＞

（文化市民局市民スポーツ振興室）

松田市民スポーツ振興室長，下間京都マラソン担当部長，平松スポーツ企画課長，土橋スポーツ振興課長，安田施設担当課長 ほか

（オブザーバー）

教育委員会事務局体育健康教育室，保健福祉局長寿福祉課

（傍聴）

フローラ（女子プロ野球），サンガ（サッカー） ほか

1 開会（事務局）

2 委員長挨拶（山下委員長）

何度か会議を開催してきて，ついに来年は5年目となり，中間見直しという節目の年となる。ぜひともここにいる皆様に協力をさせていただいて，中間見直しを進めてまいりたい。

3 議事

(1) 京都市スポーツの絆が生きるまち推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画）の進捗状況について（事務局 資料2・資料3）

資料説明（事務局・平松課長）

・山下委員長

ただいまの説明に対して，何か質問はあるか。

皆様が所属する団体の活動紹介や振興計画の3つの分野に沿ったそれぞれの取組の実績・予定等についても，併せて御報告いただければと思う。

・檀野委員

専門が水泳なので，水泳の話となってしまうが，今年の夏，全国高等学校総合体育大会，いわゆるインターハイが和歌山県を中心に近畿一円で開催される。水泳は，8月17日～20日に京都アクアリーナで実施される予定で，昨年度から事務所を立ち上げ，高体連を中心に，様々な事業を展開してもらっている。水泳だけでなくその他の競技も実施されるので，「みるスポーツ」ということで，京都全体，府・市をあげて市民の皆様にインターハイをアピールしていただければと思う。また，京都市体育協会では「ダッシュ」という情報誌を発行しており，今後大会について「ダッシュ」への掲載も考えている。希望があれば皆様が所属する団体へ「ダッシュ」を

送付することができるので、ぜひとも大会の PR に御協力をお願いする。

- ・ 山下委員長
- ・ 檀野委員

振興計画の進捗状況について、何か意見はあるか。

例年通りかと思う。京都市体育協会では、1年を通じて、スポーツフェスティバルやツーデーウォークがあり、その都度「ダッシュに」掲載していく予定であるので、さきほども言ったが、送付希望があればおっしゃっていただければと思う。

- ・ 山下委員長
- ・ 飯田委員

その他に何か意見がある人はいるか。

資料をざっと見て障害者スポーツについて書いてあるのは、「するスポーツ」のアダプテッドスポーツのみである。市民スポーツ振興室で担当をしているわけではないので仕方のないことかもしれないが、スポーツイベントの開催実績として女子駅伝や高校駅伝は掲載されているが、車椅子駅伝は書かれていない。参加人数が少なく、全国大会ではないと判断されたのかもしれないが。

障害者スポーツの現状について、京都で開催されている障害者のスポーツ大会では、最近人が集まらないということもあり、参加年齢を高校生から中学生に引き下げた。それでも、大会への参加は支援学校次第である。

また、今後支援学級の生徒も含めて、小・中学校の生徒を集めてみんなで実施するスポーツ教室等を開催できればと思う。

京都で実施されている障害者スポーツは数多くあるので、行政にはそれを拾って、できれば行政が持っている HP 等で知らせていただければと思う。

- ・ 松永委員

今の飯田委員の御発言を受けて、京都市市民スポーツ振興計画策定当初はまだ国のスポーツ基本法もスポーツ基本計画も策定されておらず、障害者スポーツのことを十分に反映することができなかったのも、そこは今回の見直しで加味しなければならぬと思う。私も、障害者スポーツの進捗は少し弱いと思った。

また、昨年も同様のことを述べたかとは思いますが、1年前に事務事業評価サポーター制度に参加することになり、障害者スポーツについて評価をさせていただいた。そこで驚いたことが、障害者スポーツは保健福祉局が所管しておりそこから予算も出るのだが、一般のスポーツと違い、全国障害者スポーツ大会では一生に一回だけサポートがある、競技スポーツにいたっては、団体はサポートがあるが、個人のほうはどうしているのかといった状態であったことである。そこで、総合的に障害者スポーツも、市民スポーツ振興室で取り扱ってはどうかと以前にも提案させていただいたように思う。その辺りも見直しで検討が必要だと思う。

※平成 26 年度からスポーツ振興の観点強い障害者スポーツ事業は、文科省に移管。

- ・ 飯田委員

国のほうでは、障害者スポーツは厚生労働省、一般のスポーツは文部科学省が管轄しており、そこを京都市がまとめて担当することはなかなか難しいかと思う。

- ・ 山下委員長

重要なのは、やはり障害者スポーツの実績の把握が乏しいことで

はないか。

- ・事務局（平松課長） 次回の会議までに障害者スポーツについて情報を拾いあげてきたいと思う。
- ・福林委員 本市としての立場は、2021年にある東京オリンピック・パラリンピックにおいて、国として、障害者スポーツを取り入れていくことを明確に打ち出しているのので、来年度の振興計画の中間見直しにおいても障害者スポーツを取り入れ、さらにそれを進化させていければと考えている。しかし、さきほど飯田委員がおっしゃったように、厚労省と文科省という管轄の違いから予算についても難しいことは現実の問題としてある。この問題についてはぜひとも皆さんに今後の会議を通じて議論していただければと思う。我々も内部で連携をして、そこから何をできるかを考えていければと思っている。
- ・山下委員長 それに関連して、支えるスポーツにあるサポートランナーは、伴走等を指すのか。
- ・事務局（下間部長） 京都マラソンでいうサポートランナーは、京都マラソンへの参加の1つの方法である。寄付をして走っていただくことにより、京都マラソンを財政的に支えていただくという仕組みであり、伴走等とは異なる。だが、これとは別に京都マラソンに視覚障害を持った方が伴走者とともに出走していただいている。

(2) 京都市スポーツの絆が生きるまち推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画）の中間見直しについて（事務局 資料4）

資料説明（事務局・平松課長）

（議論していただきたい3つのポイント）

①「新規，充実施策・取組（例）」について，具体的な案を提案していただきたい。

②スポーツの絆が生きるまち推進会議とスポーツリエゾン京都を切り離し，スポーツリエゾン京都に特化した組織を立ち上げることにについて，その是非を含め意見をいただきたい。

③委員の任期継続及び新規公募委員の募集について，意見をいただきたい。

①「新規，充実施策・取組（例）」について

- ・山下委員長 今の事務局からの説明通り，平成27年度は振興計画の見直しの時期である。3つの観点について皆様から意見をいただきたい。まずは国際スポーツとの観点からだが，トップ・プロスポーツと連携する良い機会ではないかと思う。スポーツリエゾン京都という新たな組織が立ち上げることを前提とし，国際スポーツをどのような観点で見えていくか。例えば，伝道事業を活用して，イベントという形ではなく市民スポーツに密着した形で事業を実施する等が考えられるのではないか。
- ・石野委員 国際大会があれば市民の意識は高揚するだろうが，そこから全ての人をスポーツに結びつけることは難しい。中にはスポーツを嫌いな人もおり，関心をどう高めるかは大変難しい問題である。

また、京都マラソンのボランティアを見ても、団体で応募している方が多く、各種団体と協力してやってきたことがこれまでのスポーツであるから、これをとっばらうことはできないと思う。

- ・山下委員長 石野委員の意見は重要である。国際スポーツだからという理由でみんなが協力しなければならないということはおかしな話である。国際的な大会もそうでない市民の大会も両方対等な立場のものである。
- ・事務局（松田室長） 石野委員御指摘のとおり、本市としても、計画の中間見直しの中で、スポーツ競技団体や地域においては京都市体育振興会との連携は重要であると考えている。また、単にビックイベントが開催されることを良しとするのではなく、ビックイベント終了後にいかに市民の方にスポーツの裾野を広げていくか、そのスポーツを通して、地域コミュニティの活性化を図ることが、我々の役割だと考えている。各種スポーツ団体や市民の方々をつなぐ仕組みをつくっていかねばと思っている。
- ・長谷川委員 連携の仕組みについて、ある程度できているところはある。例えば、ペタンク大会では、体育振興会やレクリエーション協会、スポーツ少年団の子どもたちが参加している。すでにつながっている実例を取り上げていただき、行政の方からそれを宣伝していただくことによって、まだ知らない地域がそれを見て他の団体とつながりを持ちはじめるとも思えるかもしれないと思う。

## ②スポーツリエゾン京都について

- ・山下委員長 スポーツの絆が生きるまち推進会議と実際は別組織だが、便宜上今まで兼務してやってきた。だが、スポーツリエゾン京都として新しい組織を立ち上げることができれば、グローバルスポーツとローカルスポーツの共存も考えることができるのではないかと。
- ・森井委員 年配の方でスポーツをしたいがどうすれば良いかという意見をよく聞く。そのため、行政がイベントという形で、年に1・2回お年寄りや子ども向けの事業を実施してはどうかと思う。
- ・山下委員長 ローカルなスポーツはみんなそれぞれ独立で行っている。京都マラソンやワールドマスターズゲームズといったものこそ、いろんな人の手をかりて、やっていくべきものであるが、我々はスポーツリエゾンと言いながら、全く機能していない。  
実際にすでに連携をしている組織もあるかと思う。そういった組織に「スポーツリエゾン京都」という看板をつけていただくということでも良いと思う。
- ・松永委員 今委員長が言ったように、振興計画策定当初は、それなりの思いを持って、「スポーツリエゾン京都」を掲げたはずであり、それを生かす作業をやっていかなければ、まさに絵に描いた餅になってしまう。当初この計画を策定した時に、私は京都マラソンが「する・みる・支える、つなぐ」という点で、形として結果を残しやすいイベントだと思った。例えばマラソンのお風呂屋さんマップの作成によ

って銭湯を使う方が増えたり、個人的には西陣織のブレスレットを売ること、京都の伝統工芸と繋がりを持ったり、スポーツとは全く関係のない業界・業域との繋がりを生む、こういった作業はさきほどの障害者スポーツにも言えることだが、この会議体では不可能だが、リエゾンならもしかしたらできるのかもしれない。

- ・山下委員長 推進会議とは別にスポーツリエゾン京都を立ち上げることに異論はないか。(一同了承) なければ、推進会議の中からどなたかが中心となって、新しいスポーツリエゾン京都について検討していただきたい。ここは京都マラソンとの関係もあるので、松永委員に中心となっていただくことでよいか。
- ・一同 了承。(なお、山下委員長には適宜アドバイス等をしていただく。)

### (3) 協働型事業の実施支援の取組状況について(事務局 資料5)

資料説明(事務局・平松課長)

- ・山下委員長 今の事務局からの説明について、意見はあるか。
- ・松永委員 京都マラソンで西陣織のブレスレットを販売させていただいたが、これは協働事業にはあたらないのか。さきほども話があったが、やっているが情報自体が集まっていない気がするので、周知が足りないように思う。
- ・事務局(平松課長) 今説明をしたのは、あくまでも行政が立ち上げた枠組み内での事業であり、協働型事業自体は他にも数多く存在すると思う。
- ・山下委員長 協働型事業が実際に京都市でどのくらい存在するかを把握することも大事だと思う。
- ・松永委員 現在取組についてどのようなPRをしているのか。
- ・事務局(平松課長) 現在はHPでの周知のみ。そのため、今後各施設へのビラの配布等を考えている。
- ・事務局(松田室長) どのように周知していくかについては、リエゾン京都と併せて考えていければと思う。
- ・山下委員長 スポーツウェブ京都について、行政の広報ではなくもう少しゆるやかな形で考えれば、スポーツリエゾン京都と上手く結び付くのではないだろうか。
- ・事務局(平松課長) 情報網の整備については、見直しを図っていきたい。
- ・山下委員長 フローラ・サンガの方にも意見を伺いたい。
- ・フローラ 子どもたちや地域の方と触れ合う機会を作っていただければ、非常に嬉しく思う。
- ・サンガ 地域密着型をうたっており、「スポーツしたい・支えたい・つながりたい」事業についても、クラブとして全面的に協力していきたい。

## 4 報告

「京都マラソン2014」に係るアンケート調査等の報告(松永委員)

資料説明(松永委員)

- ・山下委員長 今の松永委員からの説明に関して意見等はあるか。

- ・石野委員                    今回の資料は京都マラソンに関するものだが、他のスポーツについても参考となるような、非常に興味深い結果となっている。
- ・山下委員長                このような情報を集約して載せられるような仕組みがあればと思う。
- ・松永委員                    委員長がおっしゃるように、今回の結果を京都マラソンのHPにあげても、見る人が限られてしまう。そういった仕組みがあれば良いと思う。
- ・山下委員長                個人ボランティアについて、志望理由について聞きたい。
- ・松永委員                    一番多いのは地域への貢献である。  
また、ボランティアについて、今回のマラソンでは外国人の方が増加し、語学ができるボランティアの方の必要性を強く感じた。スポーツボランティアは関係ないと思っている方の中には、語学のボランティアなら、という人もいると思うので、まさにリエゾンだが、ボランティアの募集の仕方によってスポーツに関心のない人も繋がってくると思う。
- ・山下委員長                ファンラン、仮装はやっていないのか。
- ・事務局（下間部長）        道幅が狭くて本人や他のランナーも危険だということと、交通規制で沿道の方が我慢をしている状態で仮装をして走るとはどうかという懸念から、京都マラソンでは仮装を禁止している。その代わり、ゼッケンにニックネームをつけてもらい、その名前で応援をしやすいようにする等工夫をしている。
- ・森井委員                    毎年京都マラソンの開会式に参加しているが、毎回感動して帰る。ゼッケンのニックネームも応援しやすくて良い。

## 5 その他

なし

## 6 閉会

- ・事務局（松田室長） 市民スポーツ振興計画の中間見直しに向けて、委員の皆様から頂戴した御意見等については、事務局で整理させていただき、来年度予定している会議で再度皆様にご議論いただければと思う。また、委員の任期延長については、皆様承認いただけたと考えてよろしいか。御事情等により任期の延長が困難となる場合は、早急に事務局まで御相談いただきたい。